

⑪馬方は大喜びで、藤樹先生に、礼を言いました。

馬方「だんなさま、ありがとうございます。だんなさまが手伝つてくださったので、こんなに早く荷車があげられました。この恩は、一生忘れません。ほんとうにありがとうございます。」

藤「良かった、良かった。でも、決して私一人だけの力ではありません。村の皆さんがいつしよになつて、力を貸してくださったお蔭です。(温かい声で)お礼は皆さん言ってください。」



藤樹先生は、にこにこ笑いながら、足のどろを洗い、着物のどろをはらうと、何事もなかったかのように、立ち去りました。

⑫馬方「皆さん、ありがとうございます。あのだんなさまと皆さんのお蔭で、荷車を引き上げることができました。」

村人1「馬方さん、あのお方がどなたか、知らないのかい。」

馬方「はい、どなたさまで？」

村人1「藤樹先生といってな、村の



者はみな、りっぱな人だと感心しているのだよ。」
馬方「はあ、藤樹先生というおかたです。ほんとうに、親切で心のやさしいお方ですね。」

村人2「藤樹先生が、迷わず馬方を助けに行かれた時は、びっくりしたなあ。困っている人がいたら、すぐに、親切にしないではいけなことが、よく分かった。」

馬方さん、ごめんな。」

馬方「皆さんが力を合わせて、助けてくださったからこそ、楽に荷車を上げることができました。うれしかったです。」

⑬馬方「皆さん、ありがとうございます。村人1「このあたりは、まだ、あちこちの道がやわらくなっていると思うよ。気をつけて行きな。」

馬方「分かりました。気をつけてまいります。」

村人たち「では、馬方さん、さようなら。」

馬方「皆さん、さようなら。」

馬方はにこにこ、村人たちもにこに



こ、クリ公もにこにこ、うれしそうに顔を別れました。おしまい

次回は、「馬方又左衛門」の紙芝居をご紹介します。お楽しみにしてください。

「藤樹像を求めて」③

日野小学校の先生から、町内の西大路小学校の校庭にも藤樹先生の像があることを聞きして、早速、その西大路小学校に行くことにしました。

そこは、ブルーメの丘のすぐ麓に位置する伝統ある学校でした。案内された校長室の本棚の目立つところに、『中江藤樹全集』が納めてあることに驚きました。校長先生に藤樹像が設置された経緯等をお聞きしましたが、詳しいことは分からないとのことでした。



西大路小学校の藤樹像

藤樹像は、西門(旧の正門)を入った正面にありました。意外にもその藤樹先生は大変ふくよかで、親しみ深い表情をされていました。収穫のある日野町への旅でした。



旧豊郷小学校校舎の藤樹像

その一ヶ月ほど後に、豊郷町立豊郷小学校へ行く機会があったので、旧校舎にある藤樹像を訪ねました。この先生は、大変威厳のある表情をされていました。(三田村治夫)